

# 令和6年度 総合教育センターの目標と それを実現する2つの重点

【目標】 **ベストミックス**による「新たな教師の学びの姿」の実現  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

**重点1** 自ら問いを立て、実践を積み重ね、振り返り、  
次につなげていく**探究的な研修**のデザイン

〈探究的な研修を実現するために大切にしたいこと〉

**探究のサイクル**を意識しながら  
研修講座の流れを工夫

〈課題の設定〉 → 〈情報収集・整理分析〉 → 〈まとめ〉 → 〈表現〉

**自ら  
問いを立てる**

- 日常の悩みや受講の目的を共有
- 自己課題や研修テーマの設定

・総合の立ち上げがいつもうまくいかない。  
・子供がもっとのめりこめる学習の工夫やアイデアについて深めたい!

**実践(研修)を  
積み重ねる**

- 対話を通じた実践の情報交換や共同編集等
- もっと知りたい、もっと深めたいポイントを追究

・そもそも子供の見方が自分とは違うな。  
・〇〇校の実践をまねしてみたいな。まずは実践のプロセスや苦労したことなどについてもう少し詳しく聞いてみたい。

**振り返る**

- ふりかえり入力
- 研修での学びや自校での活用方法の共有

授業の立ち上げや導入がいつも教師主導になっていたことに改めて気づけた。もっと子供の目線で教材研究していきたい。

**つなげる**

- 自校での新たな実践
- 校内研修実施
- 研修会サポート

総合の授業で困っている同僚はたくさんいるし、校内研修で、もっと多くの情報交換をしてみよう。

総合教育センターの研修は、一人一人が自身の課題意識や深めたいテーマを明確にし、探究心を持って自律的に学ぶことができるよう、用意された研修内容を一方的に受けるというスタイルから、お互いの経験値に学び合うスタイルに変換してきています。

自らの問いをもとに、受講者がそのテーマの本質に触れながら、受講者同士の対話や次を意識した振り返り等を通して探究的に学び合うことで、新たな価値観にふれたり、新たな実践に向かうきっかけを得たりできる研修を目指していきます。

## 重点2

# 自身の経験や他者の学びを重視した 「実践」と「理論」の往還の充実

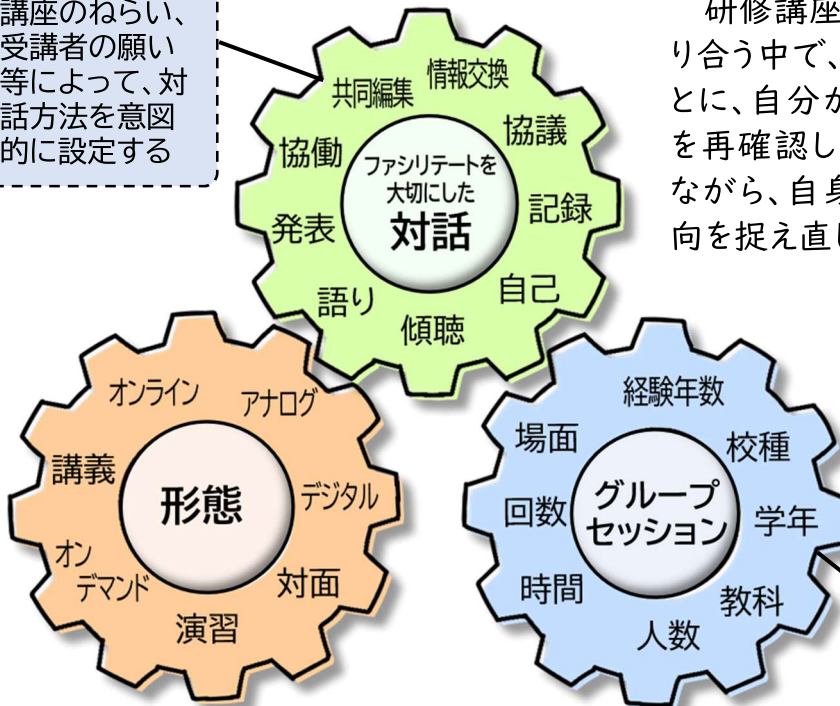
授業観、学習観を転換していくために、実践と理論を往還させた省察力による学びが必要だと言われています。センターで学んだことを学校現場の実践に生かすだけでなく、実践から見てきたことや新たに生まれた課題等をもう一度客観的にとらえ直すサイクル、そんな往還を充実させるためには、お互いの実践について語り合える機会が大切になってきます。その語り合いを「総合教育センター」の研修講座を通して実現させたいと考えています。

〈お互いの経験から学び合うために大切にしたいこと〉

## 意図をもって組み合わせるベストミックス

受講者の願い・ニーズに合わせ、最適な組合せによる研修講座に

講座のねらい、受講者の願い等によって、対話方法を意図的に設定する



研修講座では、お互いの実践を語り合う中で、他者の視点やとらえをもとに、自分が行ってきた実践の意味を再確認したり、他者の実践を聞きながら、自身のこれからの実践の方向を捉え直したりすることができるよう、様々な要素を意図をもってベストミックスしていきます。

グループ構成グループセッションの運用方法を意図的に設定する

これまで感覚的に行っていた振り返りを、自分なりの言葉や文字に変換して先生方と交流することで、教師としての様々な「観」が揺さぶられるはず。そんな先生方の「主体的・対話的で深い学び」の貴重な機会になるよう講座運営をしてみたい。

重点① 重点②を通して、  
受講者一人一人の  
「観」の更新(リ・デザイン)につながる研修講座を目指します